gaianotes

MODEROID
GOOD SMILE COMPANY MODEL KIT SERIES

ティタノマキア
TITANOMACHIA
CREATE THE BRAVE NEW WORLD IN YOUR HAND



GR
SIDE:GRIM REAPER

グリムリーパー：アウローラ・レイブン

AURORA RAVEN

©NAOKI ©GAIANOTES

戦場へ降り立つ気高き鴉、その翼は虹を纏う。

■アウローラ・レイブン

民間軍事会社G-notesの実働部隊「SPECTRA」第六番隊、通称「天藍（てんらん）のレイブン」の隊長、ミランダ・ブラックバカラが運用するαGR。ワイズ連邦の高性能αGR「エーデルシュタインII 」をベースに、G-notes のラウジール制御理論を反映して再設計された発展機。

外観もベース機から各所が変更されているが、最大の特徴は背部に装備された大型推進器「ラウジール・バインダー」にある。

ラウジール・バインダーは、複数のプレートから粒子化したラウジールを放出し、その周囲に高密度の力場を形成。その反発力を推進力へ変換することで、従来のスラスターに依存しない三次元機動を可能とする。

さらに出力リミッターを解除することで力場そのものを翼として展開することで完全な飛行が可能となる。ただし、リミッター解除時にはラウジールを急速に消費するため、行動時間は著しく制限される。その圧倒的な機動力をどの局面で解放するかが、本機を扱う上での重要な要素となっている。

ちなみにこの状態ではラウジールの超高濃度圧縮により形成された力場が可視化、光の干渉によって虹やオーロラのような光彩として観測され、機体名「アウローラ」の由来にもなっている。

SPECTRAでは各隊の隊長クラスが本機を運用し、G-notes内での機体名称は「アウローラ」。識別として部隊名と組み合わせて呼称される。それぞれが搭乗者および部隊の特性に合わせたセッティングが施されているが、六番隊は機動力を活かした強襲、突破作戦が多く、アウローラ・レイブンにもそれに合わせた調整が成されている。

曲がりなりにも軍の最新鋭機であるエーデルシュタインIIのフレームが一民間軍事会社に供与されているのは、G-notesのバックボーンに由来がある。G-notesは民間軍事会社であるが、そのメインスポンサーは現在の兵器体系の産みの親ともいえる軍需産業国家、キャスレリアである。

連邦にも強い影響力を持つキャスレリアは、G-notesが有する独自の技術力と、機体をより高度な作戦環境へ投入することで得られる実戦データの還元を条件に、エーデルシュタインIIの獲得に成功している。

無論、そこで得られた技術的成果や運用データはキャスレリアにも共有される。むしろ各国の最新鋭兵器を実戦という場で検証し、その成果を自国の兵器開発へと還元することこそ、キャスレリアにとってのG-notes最大の存在意義なのである。

ワイズ連邦にとっても民間組織からの技術供与や実戦データの提供を公然と受け入れることは、その立場上決して好ましいものではない。しかし一方で、正規軍の規律や運用体系に縛られないG-notesだからこそ可能な、より自由度の高い作戦行動から得られるフィードバックが極めて価値の高いものであることも事実であった。

その意味ではキャスレリアによる半ば強引ともいえるG-notesへのエーデルシュタインIIの供与も、連邦にとって必ずしも不利益なものではなく、むしろ双方の思惑が一致した結果と見ることができる。

そしてこの関係が単なる黙認に留まらなかったことを示すように、G-notesによる運用・改修成果を反映した同系機が、後にワイズ連邦軍において「エーデルシュタインII G型」として制式登録されていることが確認されている。

■G-notes

軍需産業国家キャスレリアをメインスポンサーとする民間軍事会社。特定国家の正規軍には属さず、各国・各勢力との契約に基づく軍事作戦をはじめ、新兵器の実戦運用、評価試験、戦術研究など幅広い活動を行っている。

その実態は、単なる戦闘請負組織とは別に、キャスレリアの兵器開発を実戦面から支える巨大なフィールドテスト機関としての側面も持つ。各国軍との共同開発や技術協力を通じて最新鋭兵器を獲得し、それらを実戦へ投入することで得られた膨大な運用データを蓄積。その成果はスポンサーであるキャスレリアへと還元され、次世代兵器の開発へフィードバックされている。

一方でG-notes自身も高い技術力と独自のラウジール制御技術を有しており、既存兵器を独自に改修・発展させることも少なくない。ワイズ連邦の最新鋭αGR「エーデルシュタインII」のフレームを獲得し、独自発展型「アウローラ」を生み出したことも、その事例の一つである。

■SPECTRA

民間軍事会社G-notesに於ける実働戦闘部隊。

あくまでG-notes独自の判断によって各地の戦場へ投入され、メインスポンサーであるキャスレリアもそれを黙認している。そのため場合によっては対キャスレリア国軍との戦闘などというケースも起こりうるが、キャスレリア陣営はそれも国軍を鍛えるためと嘯いているという。

中核となる各戦闘部隊にはそれぞれ異なる色彩と呼称が与えられ、独自の戦闘ドクトリンに基づいて運用されている。

作戦によっては複数の隊が同一戦域へ展開し、それぞれが戦線突破、拠点制圧、敵戦力の拘束など異なる任務を遂行。個性の強い各隊を統合し、一つの戦力として機能させる総隊長の指揮能力も、SPECTRAの強さを支える重要な要素となっている。

その第六番隊が「天藍のレイブン」である。隊長機、アウローラ・レイブンを中心とした高速機動戦を得意とし、戦線突破や敵中枢への強襲、重要目標の排除を担う。隊長機が敵陣深くへ切り込む一方、所属機も同一戦域で連携して戦闘を展開し、その突破力を最大限に活かす超攻撃的部隊である。

G-notes実働部隊SPECTRA所属
αGR「アウローラ」



■第六番隊”天藍のレイブン”
AURORA RAVEN



■第零番隊”白光のプリズマ”
AURORA PRISMA

■大型実体槍【ルミナ・ランス】

アウローラの共通武装である大型長槍。

単なる実体槍ではなく、機体から供給されたラウジールを槍身へ伝達し、穂先へ集中させる機構を備える。これにより物理的な刺突力にエネルギー効果を加え、高い装甲貫徹能力を発揮する。

ラウジール・バインダーとの連携を前提に設計されており、地上での高速突撃から飛翔状態での急降下攻撃まで対応する。特にリミッター解除時には、バインダーによる加速とルミナ・ランスの出力を一点へ集中させることで絶大な威力を発揮する。

ことにアウローラ・レイブンの場合、機動力そのものを攻撃力へ転換する戦闘スタイルのため、アウローラシリーズの中でも特に相性が良い。

EPISODE：Seek and Destroy

旧オーストラリア大陸中央部。
隕石飛来による被害が最も大きかったこの大陸の赤褐色の荒野を、その傷跡を避けるように大型の貨物列車が南へ疾走していた。
積荷目録は農業用大型機械。だが、コンテナに眠るのは連合軍αGR量産機――ヴィルトガンズF型を中心とした機動兵器群であった。
ワイズ連邦脱退を画策する国家、トリルが、秘密裏に雇い入れた大規模傭兵部隊。その主力が大陸を縦断する鉄路を利用し、国境へ集結しようとしていた。
彼らがトリル国軍と合流すれば連合脱退は決定的なものになり、もはや政治的な駆け引きでは止められなくなる。
だが、連邦としては脱退を止めるために先んじて武力行動を取るわけにもいかない。
そこでその阻止に白羽の矢が立ったのが民間軍事会社G-notes。作戦を遂行するのは、その実働部隊SPECTRAだった。
『一番隊"紅蓮"、東部集積地点で交戦開始。三番隊"雷鳴"も予定区域へ侵入しました』
「相変わらず早いわね、フレアと王虎の隊は」
ミランダ・ブラックバカラが一瞥したは戦域図には、大陸各地で次々と戦闘マーカーが点灯していく。
SPECTRAによる広域同時強襲。その一翼を担うのが、ミランダ率いる第六番隊――〈天藍のレイブン〉だった。
「うちの子たちは？」
ミランダは機体に搭載されたAI『クロウ』に部隊の展開を確認する。
『レイブン2、3、5、別線区で敵部隊と交戦中。全機健在です、マム』「上出来。総隊長の読み通りね」
『敵部隊の分散地点まで、ほぼ事前予測と一致しています』「こういうところは本当に嫌になるくらい正確なのよ、あの人」
『褒めていますか？』「最高にね。本人には言わないけど」
『記録しておきます』「消しなさい」
『拒否します、マム。総隊長との円滑なコミュニケーションのためです』
「円滑なコミュニケーション!あの人と!?結構よ！」
ミランダが感情の見えない能面のような総隊長の顔を思い浮かべた瞬間、前方を疾走する貨物列車のコンテナが次々と弾け飛んだ。鋼鉄の外殻を押し退け、灰色の巨人、ヴィルトガンズF型が姿を現す。その背中には情報になかった見慣れぬ大型ユニットが装備されていた。
「……クロウ。背中のあれ、聞いてる？」『いいえ、マム。私も初見です。おそらくジャンプユニットかと』
「そう。安心した」『何にでしょう？』
「私だけ聞かされてないのかと思った」『お友達が少ないですからね』
「…言語機能初期化するわよ？」
1機、2機…計4機。ヴィルトガンズが跳んだ。
背部ジャンプユニットの噴射とともに巨体が次々と大地を離れ左右へ散開する。重力に縛られた陸戦兵器とは思えない跳躍力で、アウローラ・レイブンを包囲していく。ピョンピョンとまるでバッタね。美しくないわ。それに引き換えアウローラの飛翔ときたら…
『マム、右上方です』「見えてる！」
アウローラ・レイブンも跳躍して上空へ追撃し、手にした長槍〈ルミナ・ランス〉で空中のヴィルトガンズF型を捉え、肩部装甲を抉り取る。
だが敵機は墜ちない。吹き飛ばされた勢いを殺し、そのまま空中で姿勢を立て直した。
「バッタ風情がやるじゃない！」『マム、左右から2機。上方にも1機』「ちょっと多いわね！」
地上へ降下したアウローラ・レイブンが再度地面を蹴った直後、背部のラウジール・バインダーが左右へ大きく展開、その周囲に展開されるラウジールの力場の方向を瞬間的に変化させ、機体各部へ作用する慣性を制御し、巨体が空中で不自然なほど鋭く向きを変え、銃弾が装甲すれすれを抜ける。
さらに右バインダーの出力を上げた機体は横倒しになりながら旋回。アウローラ・レイブンはルミナ・ランスを大きく振り、その反動すら姿勢制御へ利用する。
しかし、ヴィルトガンズF型は追ってくる。
『マム。このままでは数で押し切られます』「量産機に追い回されるなんて、1ヶ月はネタにされるわね」『
『そう思います。特にフレア様には』「それだけは御免だわね」
ミランダが笑った。
「クロウ。ラウジール・バインダー、リミッター解除」『却下を推奨します。理由は13点挙げられます』
「か・い・じょ」『その1。現在の稼働状況では機体負荷が規定値を超えます』
「3秒」『……3秒です、マム』「えぇ、十分！」
バインダーが咆哮し、ラウジール粒子が爆発的に放出され、瞬間的にラウジールの翼を形成する。
砂塵が円形に吹き飛び、アウローラ・レイブンが飛んだ。跳躍ではない。本来は姿勢制御を担うラウジールの出力を限界以上に引き上げ、そのベクトルを推力として集中させて10メートル級の巨体を力任せに空へ押し上げる。
1秒。
高速で空中のヴィルトガンズF型の頭上を取る。明らかに狼狽しているのがわかる。
『左バインダー出力47、右62！』「右をもっと！」
2秒。
レイヴンの機体が空中で横転し、ヴィルトガンズF型の射撃を紙一重でかわす。
そのままルミナ・ランスを一閃。ジャンプユニットを損傷した敵機が落下していく。
3秒。
「クロウ、逆噴射！」『実行』
超高濃度のラウジールの粒子が可視化された力場が流れ、虹の翼が機体を覆う。高速飛翔していたアウローラ・レイブンが空中で急停止し、慣性を殺し切れず機体が軋む。追撃してきたもう一



体のヴィルトガンズF型がその挙動に追いていけず、隙だらけになった敵機体に深々とルミナ・ランスを突き刺す。あと2機。
久しぶりの空中戦。コックピットシステムで緩和しきれないGに身体が悲鳴を上げつつも快感を覚える。この感覚をもっと味わっていたい…！しかし。
『3秒経過。通常モードに移行します』「クロウ！」
『延長なら却下します』「くっ、せっかく……！　総隊長より容赦ないわね？」
『光栄です』「褒めてないわよ！」
幸い残敵は今のこちらの動きを驚異と感じたのか、距離をとってこちらの出方を伺っている。機体を自由落下させながら、さぁどうやって仕留めようかと考えながらふと眼下を見渡すと、突然の闖入者に一旦は足を止めた貨物列車が再び動き出している。周囲には積荷としての偽装をやめたジャンプユニットを背負ったリーパー、グリムリーパーが護衛として付き従っている。つまり、中にはまだそれなりに兵器が積まれているのだろう。
あーもう。
ミランダは両手で自分の頬をピシャリと叩く。
久しぶりの空中戦に熱くなっていた。
今回の作戦概要は敵戦力の分断、足止め、しかる後に各個撃破。護衛の3、4機を落としたところで先に進まれたら意味はないのだ。わかってるわよ、総隊長。再び能面顔を思い浮かべながら
「クロウ。あともう1度。2秒だけ付き合いなさい」『……今回だけです、マム』
クロウもわかっているようだ。
機体のメンテナンスが大変なのよね…あれ。後でまた整備班に怒られるわね。
「いい子ねクロウ。じゃあ行くわよ！」
ラウジール・バインダーが再び虹を纏う。
姿勢制御。
推力偏向。
そして――全開。
自由落下から一転、濃紺の機体が虹の軌跡を描き、天空から一直線に急降下した。
狙うのは敵機ではない。貨物列車――その進路だ。
『突入角、補正します』「姿勢制御は任せる！」『問題ありません。どうぞ』
アウローラ・レイブンがルミナ・ランスを突き出した。
リミッターを解除したラウジール・バインダーによる推力と落下速度、そして機体の質量そのものを攻撃力へ変換するブーストアタック。要は吶喊である。
「いい女がいくわよ！受け止めなさい！！」
その意図に気付いた空中の敵機は、しかし、そのスピードについていけない。
そして…閃光。
ルミナ・ランスが鉄路を貫いた。
轟音とともにレールが吹き飛び、先頭車両が跳ね、後続する貨物車両が次々と横転していく。巻き上げられた岩石と土砂が空を覆った。
「ふぅ～っ！クロウ、状況確認」『敵沈黙。輸送経路、完全遮断。続いてレイヴン3より入電。敵増援と接触』
「場所は？」『北西7.2キロです』
「すぐに行くわ」『ただしラウジール・バインダーは冷却が必要です』
「飛べない？」『飛べません』
「じゃ、走るわよ」『それを強く推奨します、マム。今の衝撃で股関節に損傷を負いましたが、軽微です。問題ありません』
しかし。土煙の向こうで敵機が一体、また一体と立ち上がる。まだ終わってはいない。
「クロウ」『はい、マム』
「まずこいつらを片付けて、それからうちの子たちを迎えに行くわよ」
『了解。なお、予定作戦時間を超過する可能性があります』
あ「要するに？」『残業です、マム』
ミランダは口元を吊り上げた。
「仕方ないわね。G-notesに請求しなさい」
アウローラ・レイヴンの双眸が緑色に輝く。
ルミナ・ランスを肩に担いだ濃紺の鴉は、まだ混乱の最中にある敵機の群れへと悠然と歩を進めた。
さぁ、狩りの時間よ。

EPISODEの続きや最新情報は「ティタノマキア公式HP」にて　https://www.titanomachia.com/

Variations ～バリエーションズ～

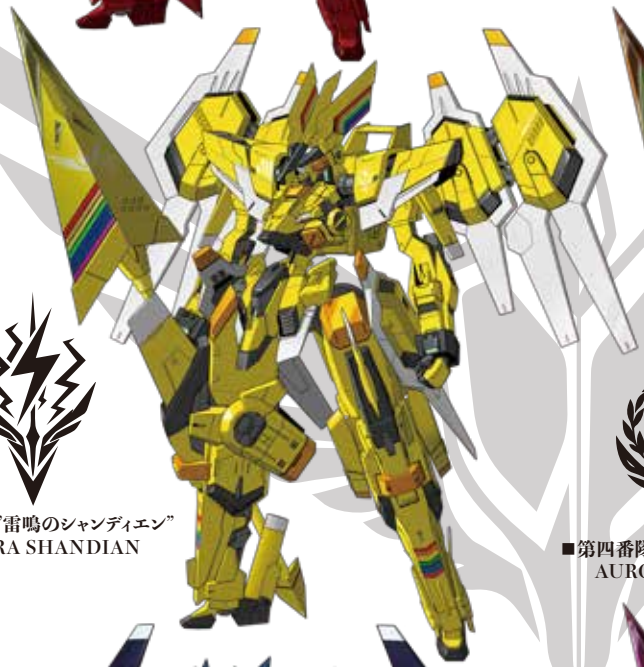
SPECTRA隊長機



■第一番隊"紅蓮のイグニス"
AURORA IGNIS



■第二番隊"陽橙のソル"
AURORA SOL



■第三番隊"雷鳴のシャンディエン"
AURORA SHANDIAN



■第四番隊"深緑のヴィーゼ"
AURORA WIESE



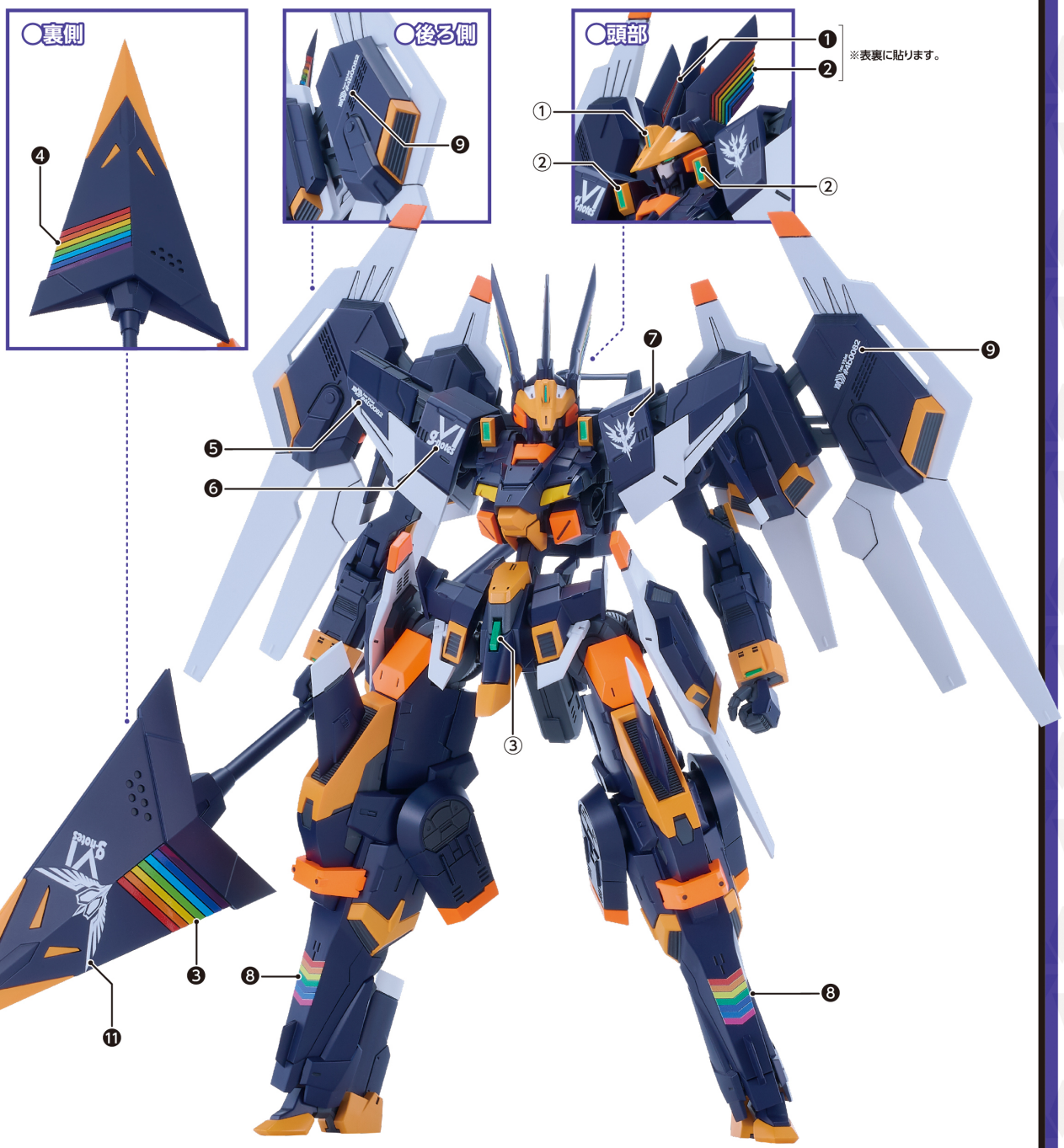
■第五番隊"蒼氷のアバランチ"
AURORA AVALANCHE



■第七番隊"幻紫のルベライト"
AURORA RUBELITE

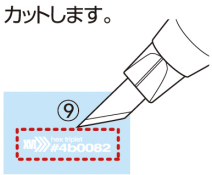
シール&デカールガイド

●指示を参考にシール・デカールを貼ってください。 ○数字はシール、●数字はデカールの番号です。
※デカール⑩、⑫、⑬、⑭はご自由に貼ってください。

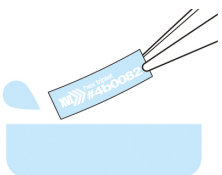


デカールの貼り方

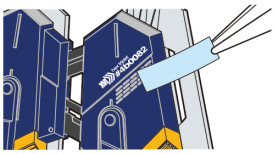
はさみ、カッターなどでシートから必要箇所をカットします。



カットしたデカールを水にひたして、しばらく待ちます。



デカールが台紙から動かせるようになったらピンセットなどを使って、貼りたいパーツに移します。



位置を決めたらティッシュや綿棒などを使って水分を押し出すようにデカールを圧着させます。

